

H26 年度第 2 回保全事業報告会



<開催日時>

- 平成27年1月22日(木)19:00-20:30 谷津干潟自然観察センター(13 名)

<説明内容>

- 保全事業の取り組み状況について
- 谷津干潟保全等推進計画書(最終案)について

※資料

[H26 第 2 回報告会:説明用資料.pdf](#)

国指定谷津鳥獣保護区 保全事業の取り組み状況

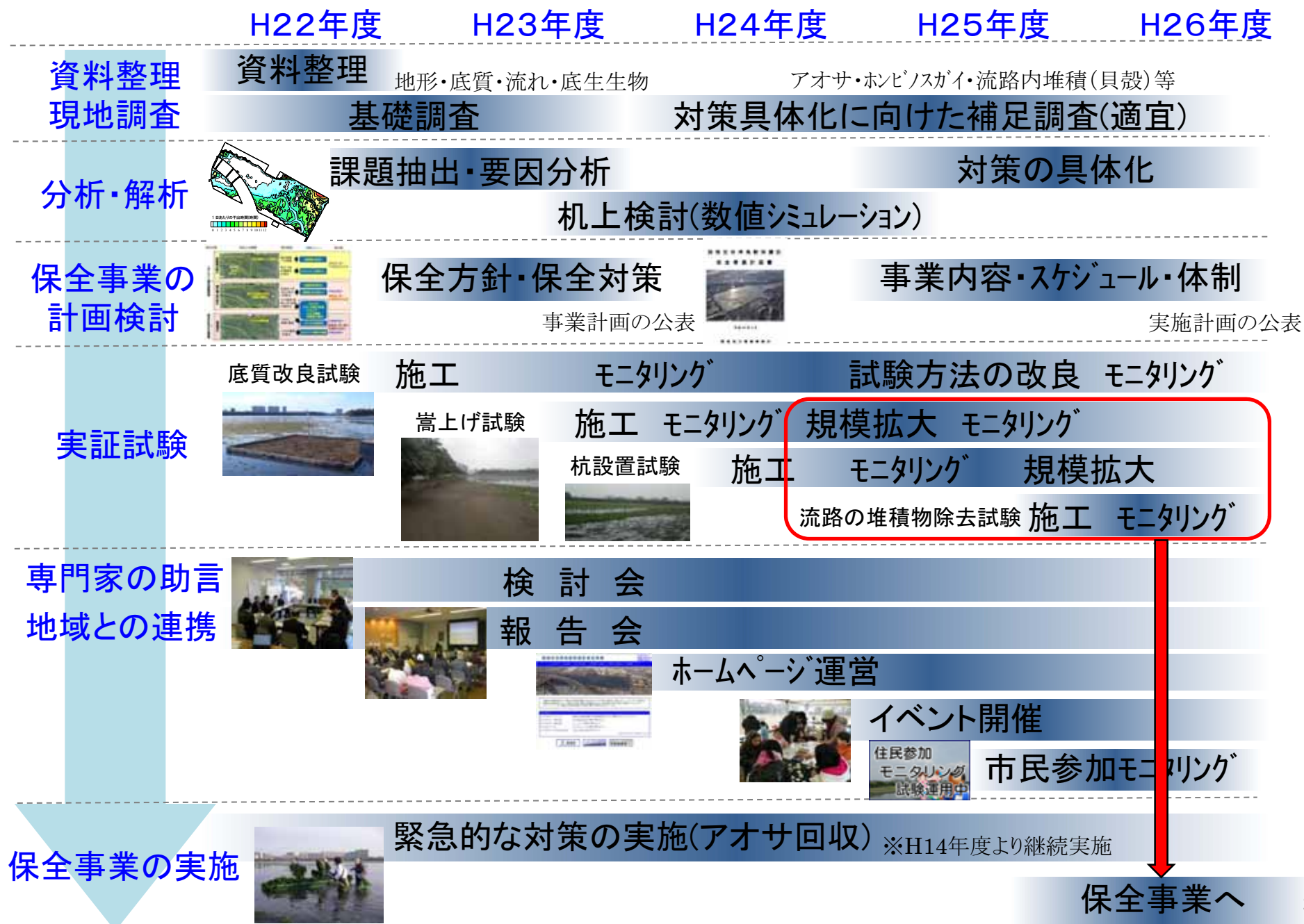


関東地方環境事務所

1. 保全事業の取り組み状況

2. 谷津干潟保全等推進計画書(仮称)

□保全事業の取組み状況(平成26年度現在)



口保全対策メニュー

保全対象

保全上の課題

想定要因

対策メニュー

優先度

シギ・チドリ類の採餌環境

採餌場の減少



東北地方
太平洋沖地震
埋立て時の
堆積泥の流出
通水経路
への堆積

かさ上げ(土砂投入)

堆積物の除去

貝類採取(除去)

緊急度: 高い
中期的な対応

※H27以降予定

※実証試験済

※イベント予定

餌の量・質の変化



泥流出に伴う
泥分減少
(砂質化)

アオサ堆積・腐
敗に伴う
表層の嫌気化

底質改良(泥投入)

アオサ除去

滞の開削

かさ上げ(土砂投入)

堆積物の除去

緊急度: 高い
長期的な対応

※実証試験中

※対策実施中

※H27以降予定

※実証試験済

周辺住民の生活環境

悪臭発生



アオサの
吹き寄せ

アオサの
腐敗

杭設置

かさ上げ

緊急度: 特に高い
短期的な対応

※対策済

※対策済

(注) 赤字は実施済もしくは実施中の対策メニューを示す

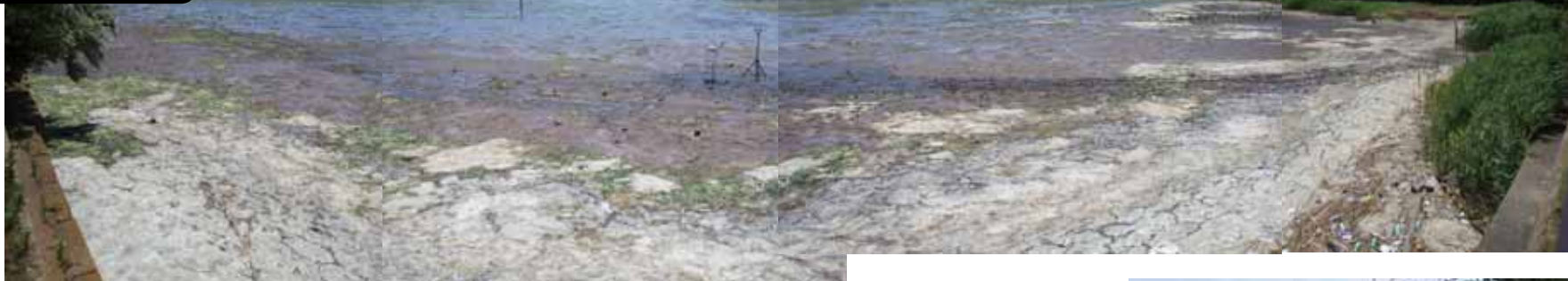
対策メニュー	実証試験	対策	維持管理・改善
■ 嵩上げ	H24.3 →	H25.3 →	現在は改善の必要性は発生していない
■ 杭設置	H24.9 →	H25.3, H26.3(拡大) →	//
■ 堆積物除去	H26.2 →	H27以降の予定	
■ 底質改良	H23.3 → 試験継続中		



口嵩上げ・杭設置(アオサの悪臭を抑える取り組み)

施工前

平成23年7月13日



施工後

平成25年8月5日



平成26年10月16日



- 杭の設置と嵩上げによって、遊歩道からアオサを遠ざけることができました
- 杭は、水鳥の満潮時の休息場としても利用されています

□堆積物除去 (海水の流れを良くして、干潟の干出時間・面積を増やす取り組み)



施工前



施工後



- ・ 掘削後、三角干潟の水は流れやすくなり、一定の効果は認められました
- ・ ただし、現在の規模では干潟全体の干出面積に変化はみられていません
- ・ もう少し掘削規模を拡大できるか検討中です

□底質改良試験(底質を変えて水鳥の餌が増えるかどうかの確認)

施工直後

平成23年3月8日



現在

平成26年9月24日

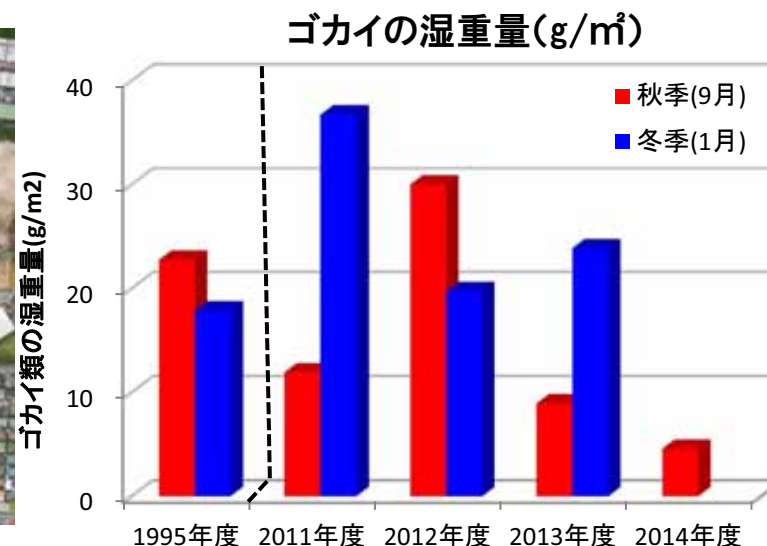
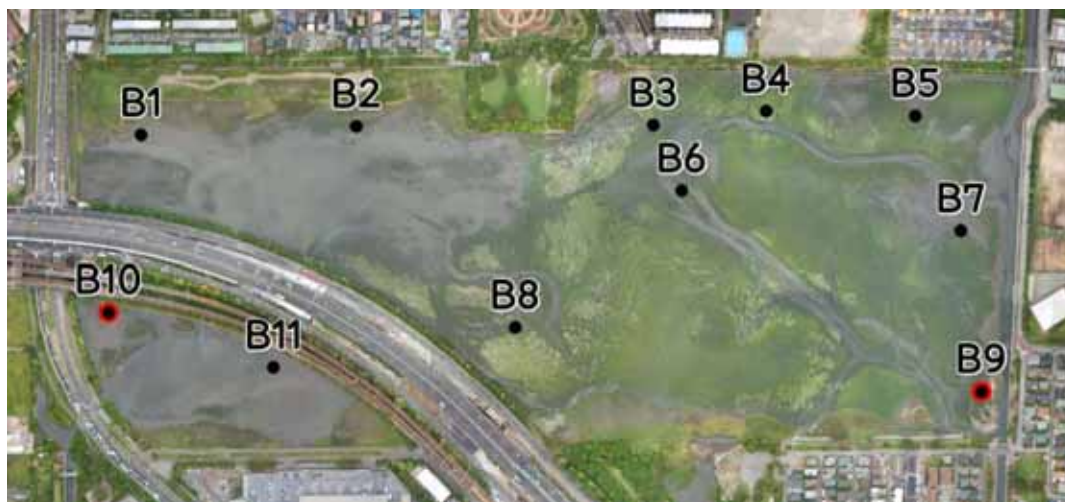


- 底質を変えると、そこに住むゴカイ類の種類が変化する傾向がみられました
- 試験区では大型のゴカイ類が増えました

□底質・底生生物調査(11箇所で実施)

【目標設定】シギ・チドリ類の餌量の目標を設定する

【干潟のモニタリング】全域の環境の状態、過去からの変化を知る基本データの蓄積



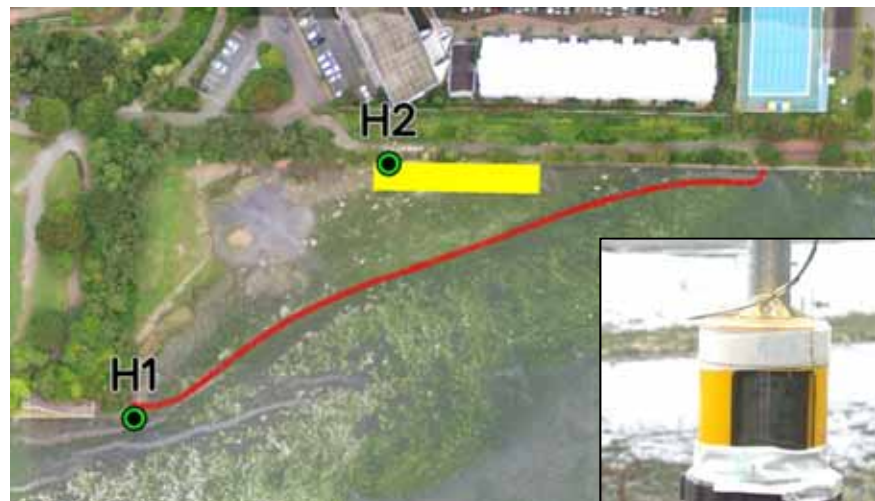
- ・ 干潟中央部は、生物が少ないです(アオサの堆積、腐敗と関係ありそうです)
- ・ 干潟の東側、西側の滞沿いで、ホンビノスガイが昔に比べて増えています
- ・ 一定面積のゴカイの量(重さ)は、1995年に比べると、とくに秋季に少ないです



ホンビノスガイ
今後も増加する可能性あり

アオサの腐敗状況調査

【目標設定】周辺住民の生活環境(アオサの悪臭対策)の目標設定



硫化水素(アオサの臭いの指標)
の連続観測機を2箇所に設置



H1: 干潟内(杭の外側)
腐敗しているアオサのそば
(発生源の値)



H2: 遊歩道(杭の内側)
周辺住民の生活エリア
(対策実施範囲内の値)

- ・ 遊歩道横、干潟内ともに硫化水素濃度が高くなるのは、5月～8月および11月
- ・ 悪臭発生源の干潟内では、遊歩道横よりも数倍から十倍程度高い値であり、遊歩道横では対策の効果が現れている

□報告会の開催

国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会の開催実績

開催年度	開催日（参加者数）	
2010 年度	2月20日（59名）	2月22日（19名）
2011 年度	8月 5日（26名）	1月20日（20名）
2012 年度	10月12日（34名）	2月26日（23名）
2013 年度	9月11日（12名）	1月16日（20名）
2014 年度	9月27日（31名）	1月22日



□住民参加モニタリングの試験運用(平成24～26年度)

みんなで見守る谷津干潟 住民参加モニタリング

谷津干潟を保全するには、住民、行政、国、専門家等の関係機関が連携し、地域が一体となった取組を進めることが必要不可欠です。

国指定谷津鳥獣保護区保全事業では、保全事業のための調査の一環として地域住民の方々と行政が一体となり取り組む「みんなで見守る谷津干潟-住民参加モニタリング」を実施しています。

「みんなで見守る谷津干潟」の一環として「ウェブサイトを用いたアオサ情報の収集」を始めました。

「ウェブサイトを用いたアオサ情報の収集」では携帯電話やスマートフォンなどを活用し、住民からの情報(アオサの量、におい等)を継続的に収集します。

アクセスは「国指定谷津鳥獣保護区保全事業ホームページ」・URL・QRコードよりお願いします。

谷津鳥獣保護区保全事業 検索 <http://yatsu-hozen.com/mon/>

□アオサ情報の活用例(とりまとめ結果は国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会に報告されます)

- アオサの量の季節変化
- アオサのにおいの分布
- 写真による干潟の状態記録

どこでもアオサ観測

「どこでもアオサ観測」は任意の場所でのアオサの情報、干潟の写真を投稿できます。入力項目は少なく簡単に参加できます。

定点アオサ観測

「定点アオサ観測」は3箇所の定点よりアオサの詳細な情報を投稿できます。入力項目は多く、比較的難易度が高いページです。谷津干潟のことに詳しい方へおすすめです。

←携帯・スマホのアクセスはこちらから

環境省 関東地方環境事務所

■投稿者数 50人

■全投稿回数 240回

■投稿回数※ランキング

👑 1位(97回) honza さん

👑 2位(27回) やまと さん

👑 3位(26回) 津田沼高校生物部 さん

(平成27年1月20日現在)

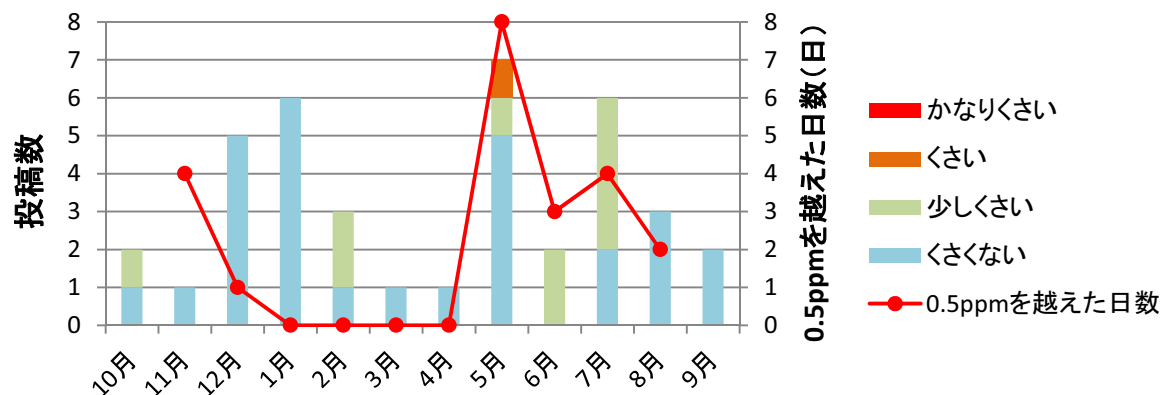
※1日のうちで情報提供していただいた地点数を投稿回数としてカウントしています

□住民参加モニタリングの試験運用(平成24～26年度)

■におい投稿数の季節変化

「くさい」、「少しくさい」
が多かったのは
2月、5月、6月、7月
(機械による硫化水素の観測
結果と同じ傾向)

におい投稿数の季節変化(嵩上げ区:No6)



■地点別のにおい投稿数

「くさい」、「少しくさい」が
多かった場所は、N0.5、7、9



□住民参加イベント（平成24～26年度）

平成 24年度	第1回2013年1月26日（土） <u>約150名参加</u> ○保全事業現地見学 ○展示（パネル・生物） ○工作（缶バッジ）等		
平成 25年度	第1回2013年8月24日（土） <u>105名参加</u> ○現地見学（嵩上げ区） ○展示（パネル・生物） ○工作（缶バッジ）等	第2回2013年10月27日（日） <u>約100名参加</u> ○アオサの量を調べよう ○展示（パネル・生物） ○市民参加モニタリング体験等	第3回2014年2月2日（日） <u>約70名参加</u> ○バードテーブル作成 ○市民参加モニタリング結果発表、市民参加モニタリング体験等
平成 26年度	第1回2014年9月21日（日） <u>21名参加</u> 谷津干潟保全事業・学生ワークショップ『谷津干潟を共に観てみよう、調べてみよう』 ○谷津干潟の環境変化紹介 ○高校生・大学生の調査体験 ○谷津干潟の環境について全員で意見交換、グループワーク	第2回2015年2月1日（日）予定 （仮）高校生・大学生プレゼンツ 知ろう！触れよう！谷津干潟 ホンビノスガイで学んで遊ぼう ○学生たち自らがイベントを企画立案 ○ホンビノスガイ分布調査 ○ホンビノスガイの殻の活用等	

□5年間の保全事業取り組みの成果(まとめ)

保全上の課題		事業内容	成果	今後の取り組み
シギ・チドリ類の採餌環境	採餌場の減少	・干潟の干出時間、干出面積を増やすための対策を シミュレーション解析 にて検討 ・高瀬川合流部の 堆積物除去 によって 排水を促す 試験の実施	下げ潮時の排水を促すことにより、 干潟の干出面積・干出時間を増加させることができる ことが分かりました	水路部の堆積物の除去や干潟部のかさ上げを慎重に検討し実施します
	餌の量・質の変化	・干潟内の生物や生息環境についての調査 ・底質改良(泥投入)による生物変化の試験を実施	谷津干潟の 環境の変遷 (底質、アオサ等)や水鳥類の 餌となる底生生物の量・質の変化 を確認しました	生物の多様性が損なわれないように配慮しながら、水鳥の餌がこれ以上減らないよう対策を実施します
住民の生活環境	アオサによる悪臭発生	悪臭の発生が顕著な場所(谷津バラ園南東側)において 地盤のかさ上げと杭の設置	アオサの吹き寄せ、堆積を抑制することで、 護岸近くの悪臭を低減 できました	維持管理を適切に行い効果を維持させます
普及啓発・住民参加	多くの人々に谷津干潟に関心を持ってもらう	・地域住民向けの報告会や住民参加イベントの開催、 ・ホームページによる情報発信 ・住民参加モニタリングを実施	谷津干潟の環境について 情報共有、意見交換 ができました 住民参加モニタリングでは、貴重な 情報を集約する仕組み ができました	普及啓発や住民参加の取り組みを継続させます

国指定谷津鳥獣保護区保全事業(平成22年度～平成26年度)

国指定谷津鳥獣保護区保全事業計画

環境省事業

を実施するためのもの



谷津干潟保全等推進計画書(仮称)

自然と人 共に生き、安らぎ、憩う谷津干潟

**谷津干潟に関
わる全ての主体**

が推進すべきもの

今後の課題・取組

(1)水鳥の採餌環境

- ①水鳥の採餌場の減少
- ②水鳥の餌の量・質の変化

(2)周辺住民の生活環境

(3)干潟の普及啓発

予測外の環境変化にも対応するため、必要に応じて見直しや進捗管理を行う。

また、5年毎に確認を行う。

行政(国、地方自治体)
地元関係団体
地域住民 等
が分担又は協働して
解決・推進していく